

愛知県知事 神田 真秋 様

愛知県県民生活部 部長 大久保 裕司 様

愛知県県民生活部学事振興課 課長 長谷川 好喜 様

愛知県公立大学法人 理事長 清水 哲太 様

私は、愛知県の県民生活部よりの要請によって愛知県公立大学法人が開催している、愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会委員に大学法人から指名されて参加している奥村昭雄です。

愛知県立芸術大学の「新音楽学部棟」の新築に関する実施設計の開始、および、同大学内の外人公舎と女子寮の取り壊しについて、私は了承しておりません。9月3日に行われた第5回検討会の録音をきいて疑問を感じましたので、了承していないことの確認のためにこの文書を差し上げます。

この検討会は大きなテーマとして、愛知芸大のキャンパスを、全体計画を考えた上で「改修+増築によって整備するか」または「全面改築(新築)するか」というビジョンを検討するために生まれたものであると理解して参加しました。もともと県は、「改修+増築」で出来ると、2005年・2006年に調査と計画をしてこられました。大学法人側は2006年以降新築を望む先生方の先導で「全面改築」でなければ解決しないと主張されています。

私は当初の県の考えを支持します。県の学事振興課が検討した予算としてはおおよそ、改修+増築ならば140億円。それに対しての法人側全面改築案であると280億円になっており、二倍の金額です。改修の技術的な工夫は力量によって充分克服可能です。「全面改築ではなく、改修と増築でやりましょう」という意見は、検討会の中ではたしかに少数意見であります。検討会の人員構成そのものが、「全面改築」を主張してきた先生方で大半を占め、改修を主張する人が少数意見になるように、はじめから用意されているので多数・少数の問題を超越して論議すべき場面です。今回俎上に上がっているのは「新音楽学部棟の新築」だけのように見えますが、実はこれを建てるということは、将来、新コンサートホールを隣接して新築することになり、既存のそれぞれの建物をドミノ式にスクラップアンドビルドしていくことと組み合わせっており、自然破壊につながる全面改築に及ぶ計画であることは、賢い人が見れば一目瞭然です。これからゆっくり全体計画を検討する、と言いながら、新音楽学部棟そして何故か新講義棟・新学生会館も、と次々の計画が出てくることの意味が理解できません。とりあえずの緊急対応のみとしてしか考えず、どうしてこの段階で「全体計画」を検討しないのか、全く理解に苦しみます。

第5回の検討会では、「外人公舎と女子寮(及び職員公舎と職員住宅はいずれも2010年3月末日に法人から県に返還されて県の所有になっている、と説明されているもの)の取り壊しが県議会で予算化しているので実行してよろしいと了承されたものと思います」という報告がなされています。これは「報告事項」であって「検討事項」になっていません。従って了承する、しないという問題ではない。かねてより、この問題は全体計画に関わる重要な事項でありますから「検討」していただきたいと要望して参りました。「報告」ではなく「検討」していただきたいと重ねて要望します。了承はしておりません。

そこで知事に申し上げたい。本当に愛知芸大の将来を考えているのは、誰でしょうか。少子化と厳しい経済の中で、入学希望者が減少していることは事実です。新しい建物をどんどん建てて、更に保守管理費が増大し、学校経営が大変になる方向がわかっているながらスクラップアンドビルドをやり続けてよいとお考えでしょうか。自然保護について並々ならぬ努力の先頭に立っておられる神田知事が、秋に名古屋で開かれるCOP10において、スクラップ中の外人公舎と女子寮がある愛知芸大三ヶ峯の丘を、世界から来る自然保護関係の方達に見せなければならない事態をどうお考えですか。

愛知芸大を大切に考えて作られた桑原知事の残された意思と、1966年開校の時の設計者の思い、そしてここをルーツとしてきた多くの卒業生の思いを、神田知事に受け継いでいただきたくて、この手紙をお届けします。外人公舎と女子寮は今まさに取り壊しが実行されようとしています。学内にもこの二つの愛すべき建物を利用したいという意見があるのに、それが県に伝わっていないと聞いています。是非、今回の取り壊しを中止していただきたいと切望します。愛知芸大全体を、壊さずに、明らかに安く出来る方法で直して使う、という方向を指示していただきたいと希望します。

皆さんが苦勞して納めた県民の税金を、何故安く出来る方法がいろいろあるのに、敢えて高くなる方法で使っているものか、世に問いたいと思います。

お返事を聞かせてください。よろしく願いいたします。

2010年9月9日

東京芸術大学名誉教授

奥村 昭雄

奥

村

昭

雄 